

企業名： 株式会社ファンケル

レポート名： ファンケルレポート 2024

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

理解できる

創業理念「正義感を持って世の中の『不』を解決しよう」、経営理念「もっと何かできるはず」、長期ビジョンである「VISION 2030」、に関する説明が序盤になされていることで、目指す理想の姿勢が感じられる。また、価値創造モデルとして、価値創造の源泉というインプットとビジネス戦略としての中期経営計画「再興 2026」を合わせて得られるアウトプットとしての創出する価値がアウトカムとしての社会に還元する価値「VISION 2030」を達成するという流れがしっかりと示されており、理想を単なる題目ではなく実現させようとする姿勢が感じられるところもよい点であると感じた。3つのテーマとして挙げられた「豊かな地球環境」「健やかな暮らし」「誰もが輝く社会」にはそれぞれ重要課題が設定され、成果指標、目標年、去年の結果が示されており、非常のよいと感じた。その後の3つのテーマに関する詳しい説明部分を含めれば、統合報告書の三分の一程度を将来ビジョンに関する説明に充てており、本気度がうかがえる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

理解できる

先の価値創造モデルで挙げられた価値創造の源泉がファンケルの競争優位性であると考えられる。価値創造の源泉については「価値のブランド」「高い研究開発力」「徹底した品質管理」「お客様との深い絆」「新しい価値を創造する人材」「お取引様との共存共栄」の6つが挙げられており、それぞれに関して1、2ページほどを割いて説明がなされていた。過去ベースの話と未来へ向けた取り組みが、それぞれのセクションごとに説明されており、理解できるものであったと感じる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解できる

前述したように、価値創造の源泉に関する説明は、過去ベースの話から、それを受けて未来にどう方策を打つかという流れで基本的には説明されている。したがって、未来に向けた競争優位性を保つ取り組みに関しては、統合報告書内で説明できていると以为いいと思う。ただ、過去、未来両方の話をするにあたって、例えばイノベーションを加速する研究・知的財産セクションの特許出願数など、数値として比較できる場合は、他社との比較があるとより説得力があったのではないかと感じる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

達成できると思う

異文化理解・語学習得プログラムの実施、海外業務従事者の増加、サクセッションプラン、経営スクールや知識習得の実施などの人材育成に関する取り組みがあることは理解できた。また、組織風土づくりも行っているというため、人的資本の価値向上については達成できるのではあろうと感じる。ただ、特別対談①人的資本経営の段で言及されていた、新中期経営計画における人材ポートフォリオに関しては特に記載がなく、プログラムを通じて、人的資本のうちどの部分が育成されるのかが理解しきれない部分がある。コーポレートガバナンスの章において役員のスキル・マトリックスは示されているため、このような要領で、各プログラムを行うことでどのようなスキルが得られるのかが示されていると、よりよくなるのではないかと感じる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

上述した点と重なるが、達成目標などが数値で表せる部分は数値がそれぞれ示されていた。また、どうしても文字情報が多くなりがちな統合報告書において、数値等のグラフ化や、文字情報の表を用いた整理など、できるだけ見やすく作られていた点は良かったと思う。未来の目標と過去の実績を併記することで、目標達成の度合いがわかるのも良かった。事業概況と今後の展望や環境・社会・ガバナンスなどの章において、セクションごとに色分けがされていた点も、区切りがわかりやすくて良かったと感じる。

改善余地としては他社との比較があるとよいと感じた。これも前述したが、ファンケル自身の競争優位を語るうえで、自社の強みが他社や業界全体と比較してどうなのかという点が明確になるとさらに良い統合報告書となると思う。